厳のしらかし

《白橿中学校だより 第10号》
令和7年 12月23日発行
文責： 校長　西村 拓司

冬休みを迎えるにあたって ～自分という畑を耕そう～

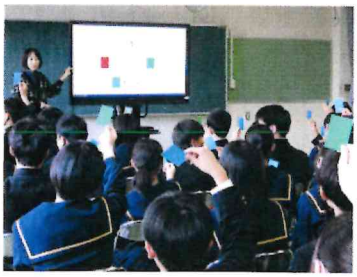
この２学期は、体育大会、文化祭、合唱コンクールなどの学校全体の大きな行事、そして、各学年で行われている命の授業や福祉体験、キャリア教育の取り組みもあり、みなさんの熱意や努力、協力が実を結んだ充実感、達成感のある２学期になったように感じています。

いよいよ冬休みになりますが、みなさんにひとつだけ次の言葉を贈ります。それは、**「自分という畑を耕そう」**という言葉です。

この言葉は、パナソニック（松下電器）創業者の松下幸之助の言葉で、思うようにいかない時こそ、人や環境のせいにしないでコツコツ自分づくりに励みなさいということです「自分という心の畑を耕す」からこそ、そこに蒔いた種から実りが生まれます。今日１日を振り返り、時間を有効に使ったか、努力を怠らなかったか、善悪の基準に照らして自分の言動や行動は大丈夫だったか、そのような習慣が「心の畑を耕すこと」に繋がるかと思います。特に新しい進路を切り拓く３年生のみなさんは、粘り強さが必要な時かと思います。受験に向けて時間を有意義に活用できる冬休みを過ごしてください。それでは、３学期にみなさんの元気な笑顔を見られることを楽しみにしています。

保護者のみなさまにおかれましては、日々の温かなご理解とご支援ありがとうございます。来年度も皆様とともにより良い学校づくりを目指してまいりたいと思っております。新年も引き続き、よろしくお願い申し上げます。

◆ 命の授業「命の大切さ～多様性・ジェンダーについて考える」（２年生）



12月4日（木）みんなが幸せに暮らしていくために多様性・ジェンダー（命の大切さ）と生きるという命の授業を関西学院大学の安藤幸先生にしていただきました。

前半は「多様性」を考え、後半は「性の多様性」を考えました。ある枠組みでとらえている物事をそれとは異なる枠組みで見ていくことなど3色のカードを使いながら質問に答えるという参加型授業で教えていただきました。

「自分らしさを大切にしよう」「お互いのらしさを認め合おう」「違った意見とどう向き合うのか」という先生のメッセージが伝わったのではないでしょうか。また、新しい言葉「SOGIE」ソジー（自分の「性のあり方」に向き合う言葉）や「Ally」アライ、仲間（いろんな「ちがい」をこえて友だちになろう）など新しく知った内容がたくさんあり学びの多い時間でした。感想文には、「絶対にこうだと考えていたものが人によっては違うように見えていて、意見や考え方が違うとしても否定するのではなく、尊重し受け入れてより良い社会に繋げていきたい」「自分のことについて告白するのには“信頼”があり、それを守ること大切にした上で相手だけではなく自分自身も大切にしたい」と書いていた生徒が多かったです。話をしっかりと聴く様子を見ていて、もっと知りたいというみんなの姿勢がよく伝わりました。　　（文：養護教員　上田 依子）

◆ 命の授業「あなたの命～生と性について考えよう～」（１年生）

11月7日（火）心友助産院の助産師さんに来ていただき、思春期の体の変化、妊娠、命の誕生、命のつながりなど人形を使った胎児の成長やスライドを見ながら出産時の様子などなかなか聞けないこともたくさん教えていただきました。

また、模型を使った命の誕生の話は分かりやすく、今までなんとなくでしか理解していなかった人も、「なるほど！」と知って嬉しそうな表情をしていました。

自分の心臓の音を聴診器で聞いたり、妊婦体験では、妊婦さんの1日として洗面器で顔を洗ったり、買い物の荷物を持って歩いたり、畳の上のおもちゃを片付けなどをして妊婦さんの大変さを感じ、いたわりの気持ちを持てたのではないでしょうか。

感想文には、「私が生きていることを当たり前だと思わないようにしようと思った」「こうして産まれて元気に育っていることに感謝しながら命を大事にして生きていこうと思った」「自分を産んでくれたお母さんに感謝と大切に育ててくれていることに感謝して生活していきたいと思った」など、たくさんの人が感謝の気持ちをつづっていました。

（文：養護教員　上田 依子）

◆ 福祉体験学習を通し、広がった思いやり（１年生）

２学期最後の総合的な学習では、車いす体験・アイマスク体験・高齢者疑似体験に取り組みました。視界を遮られたまま歩く不安、車いすを動かす難しさ、介助する難しさ、そして、身体が思うように動かないもどかしさ、これらの体験を通し、普段は気づきにくい不便さや、助けてもらう側の気持ちを深く感じ取ることができました。

体験後には、「一言声をかけてもらうだけで安心する」「段差がこんなに怖いと思わなかった」「思いやりの声かけが大事だと分かった」といった気づきが多く聞かれ相手の立場に立つことの大切さを実感する時間となりました。

（文：１年学年主任　大隅 成悟）

（高齢者疑似体験）

（車いす体験）

（車いす体験）

（アイマスク体験）